

装いを変えて全国各地の建設展に

三笠の73年型展示場

異彩を放つ

本年は、本紙創刊十周年に当たりますので、このところ数年間、フッド型の三笠カラーでお馴染みの展示場を、札幌展からモデルチェンジして、写真のように強固なパイプの梁六本と前後四本の支柱により、屋根ぐるみ、モダンなクリーム色でデコロン張りしたキャンピングに致しました。

札幌展では、四十八年度新製品のほかからMDR II T38型トレンチローラーを弊社展示場前に溝を掘って実演致しました。

また東京展では、展示場前に25度の勾配をつけた土手を築いてMDR II S50型スロープタンバールの実演をし、何れも多大の好評を博しました。

ご高承のように、わが社の製品は、他メーカーに比べて、非常に機種が多いものですから、どうしても、このような形式のものでないと充分に陳列しきれないので、何時も少々ゴチャゴチャしてはいますが、一方でユーザースタッフに一台でも多く三笠製品を見て頂きたいという念願から、何時も設置には苦勞を感ずられております。

日本建設機械化協会の主催で建設機械の展示会が、お膝元の東京を基点として、新潟、仙台、札幌、名古屋、大阪、広島、高松、福岡と全国に拡がり、わが国建設機械の粋を集めた所謂、新製品発表の場ともいうべきこの祭典が、年々盛んになって行くことは、会員の一人としてまことに同慶に堪えません。

わが社では、最初からこの建設展に、多大の関心を寄せて、東京と地方とを問わず、その催しの

三笠ニュース

発行所

東京都千代田区猿樂町1-4-3

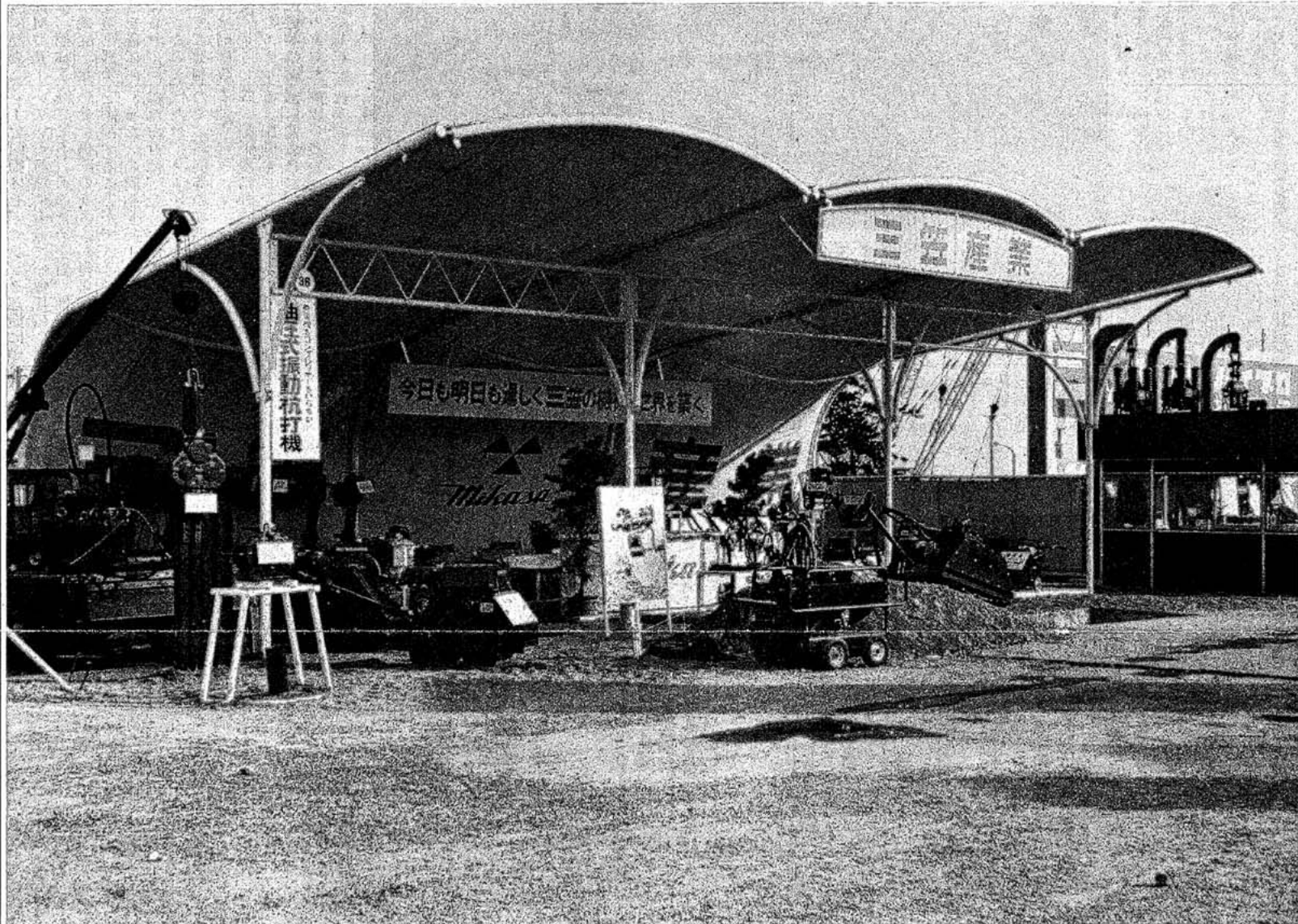
三笠産業株式会社

電話 東京(292) 1411 大代表

テレックス 222-4607

郵便番号 101 番

PR 旬報 年4回発行



総てに、欣然参加してまいりました。

日本建設機械化協会の創立は、昭和二十四年という事です。その年から展示会が開催されてきたかどかは知る由もありません。しかし、弊社は昭和二十五年に芝の田村町から銀座へ出て、やがて銀座から八重洲へ移ったのが昭和二十七年五月で、それから本格的にパイプレーターと取組むことになったのです。当時の四冊の状況から判断して、建設機械展への参加は、時期尚早という感じが致します。おそらく建設機械展へ出品するようになったのは、昭和三十年頃からはないかと推測されます。

下掲(1)の展示会写真は昭和三十一年の日本建設機械展で、出品してあるものと当時の型録とを比べて見ます

と大分生産面では進んでいたようです。この写真にあるパイプレーターは、今のものと全くと比較にならないほど粗末な製品ですが、その後の改良を経て、今も盛んに使用されているのです。まことに感慨深いものがあります。おそらくこの中にも今も有るサンダーやテラゾーも出品されていたものと思われ。ところが、この時代に一応展示会に出し、型録にも掲載したもので、僅か四、五年の間に姿を消したものがあつた。それは戦前から作っていた岩面掘削機を始めとして、チュククリナー、シャッター掘削機、コンクリート穴明け機(ジャンパ)、ピストル型棒打振動機、円盤鋸仕上機などです。またその後開発されたものの中で、現在姿を消しているものも数少なくありません。今それを年代順に見て見ますと、33年に開発した、フレキシブルベルトコンベヤー、中型(搭乗型)路面仕上機、36年の4型(大型)コンパクター、38年のパイロットローラー、12型ローラー、10型インパクトローラー、100型ランマー等吾々の記憶に新しいものが多いとあります。

現在、弊社の総合型録は八重洲へ来てから、毎年一回定期に発行して二十一年号になっています。今その一頁、一頁を繰って行きますと、どの時代にどんな機械が生れたかということがよくわかります。

戦前から弊社は、フレキシブルラインダーを専門に製作していた関係上、その当時の総合型録を見ますと、その中に極めて旧タイプの内部用コンクリートパイプレーターと平面パイプレーターの載っているのに、今更の如く驚くと同時に、やっぱりパイプレーターの三笠の歴史は古いということをしみじみと痛感させられます。

戦争になってから、セメントがなくなつて、今更パイプレーターでもあるまいという事で、専ら航空機エンジンの内面研磨用として、フレキシブルラインダーを作つてばいいので、すっかり忘れ返さつていたところ、戦後の復興工事で、パイプレーターが陽の目を見るようになったのも、永年フレキシブルシャフトと取組んで来たお蔭だと思つています。それです。展示会も最初の方は、専らパイプレーターだ。一番合理的で成功しているように思つて、ミカサ特殊モーターとミカサエンジンを使った内部と外部の他に平面用と仕上用とテーブル用のものを出品しておりました。それが何時となく、コンパクターが生れ、ランマーが出現し、ローラーが登場して、それだけでなく最初から機種が多いところへ、これ等新製品がドツと加わつたので、一時はこれを消化するのに大変苦勞したもので

凡そメーカーである限り、新製品の開発に取組むことは当然のことであつて、わが社がこの建設展に出品する唯一のねらいも、新製品を発表して、その実演を公開するためのもの、簡単に製品を展示するだけの建設展であつたら、その意義は半減するものと思ひます。

元来メーカーは、ユーザースタッフの希望しているものを、速に造つて仕上げるのが建前であり、又それが仕事でもあると思つています。しかるに、メーカーといへども、生活がかつていて、以上、どんなに便利で、価格が馬鹿高かったり、需要量の少ないものは、採算上お引きうけしたくも出来ないのは甚だ遺憾なことです。そこで、吾々メーカーとして、常に多数ユーザースタッフの御使いになれそうなのを開発しようと日夜苦勞しておるわけです。

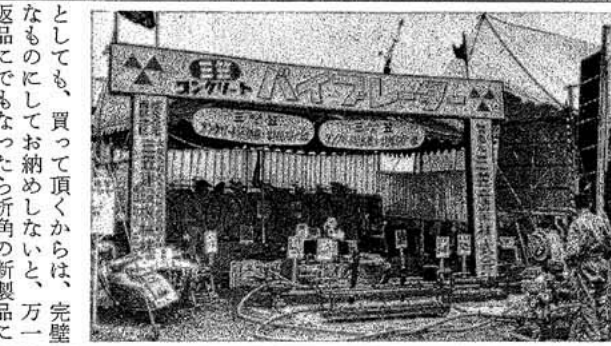
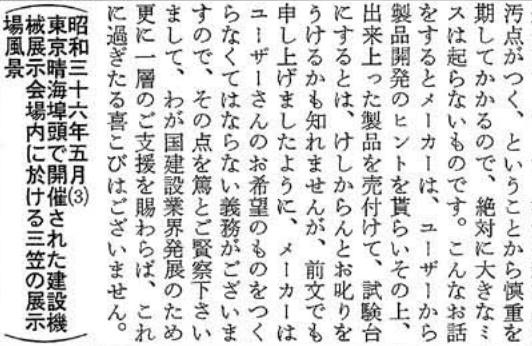
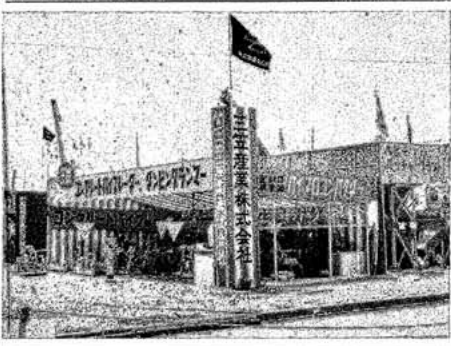
昔から一生に一度、アツといわせような、当る商品を開発出来たら、遊んで暮せると言つた位です。それ、そうそう世の中をビクビクさせるようなものがやたらに生れて来るとは思つておりません。

昭和三十一年五月(1)
東京日比谷公園内で開催された建設機械展示会場に於ける三笠の展示場風景

としても、買って頂くからは、完璧なものにしてお納めしないと、万一反品にでもなつたら折角の新製品に汚点がつく、ということから慎重を期してかかるので、絶対に大きなミスは起らないのです。こんなお話をするとメーカーは、ユーザースタッフから製品開発のヒントを貰ひ、その上、出来上つた製品を売付けて、試験台にするとは、けしからんとお叱りを受けるかも知れませんが、前文でも申し上げましたように、メーカーはユーザースタッフの希望のものをつくらなくてはならない義務がございますので、その点を篤と賢察下さいまして、わが建設業界発展のため更に一層のご支援を賜われば、これに過ぎない喜びはございません。

昭和三十六年五月(3)
東京晴海埠頭で開催された建設機械展示会場内に於ける三笠の展示場風景

昭和三十一年五月(2)
大阪市中央公園内に設けられた建設機械展示会場内に於ける三笠の展示場風景

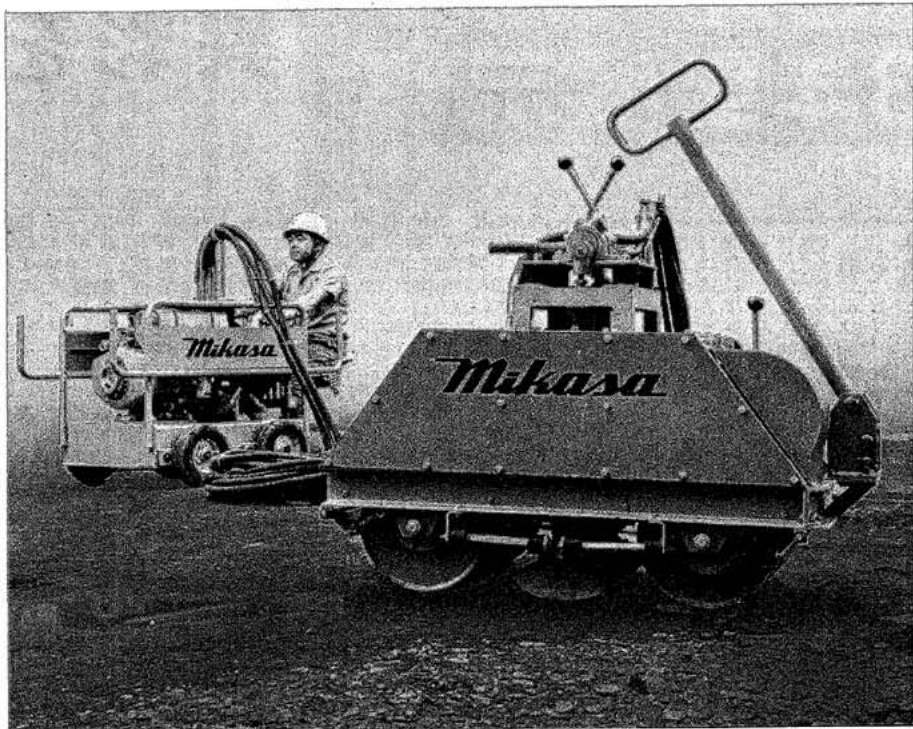


MDR-S50型・スロー・スタンパー

(愛称スロツパー)

早期発売

(八月下旬)



三笠産業ニュース記念号に発表し、昭和四十八年度の新製品MDR-S50型スロー・スタンパーは、館林工場の仮設作業所で技術的に幾度となく試運転され、又東北高速道路那須北工区現場で実地作業試験を経て、東京建設機械展示会に出品され、同時に弊社の東部地区代理店さんのご一行に実演説明会を実施してご批判を仰ぎました。技術的には何等改善のご意見なく大好評を博しました。但し、スロツパー全体のモデル及びオペレーターの操作位置等に就いて若干のご希望意見がありました。これらに基づき、種々検討した結果次の様に一

部を手直し、愈々近々発売することになりました。従って、技術的な改善はございませんので性能は展示実演機種と同じものです。次に仕様及び改良点とその特長を紹介させていただきます。

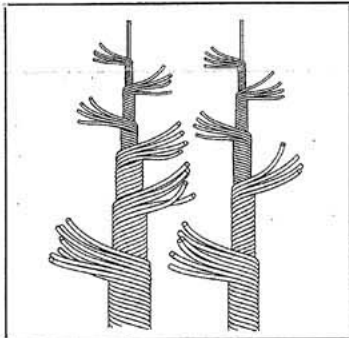
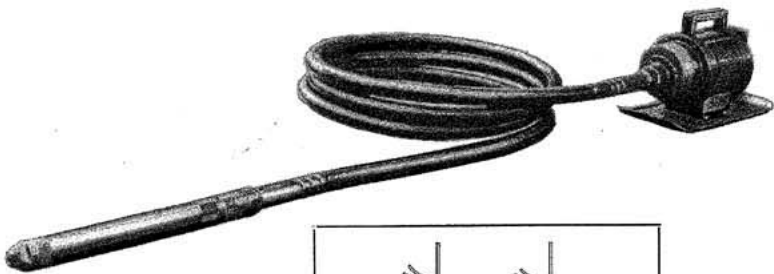
一、走行および振圧はすべて油圧機構となっており、操作が簡単で、本機から離れて操作できるので大変便利である。

二、振圧装置は当社独自のMOH-8型バールハンマーと同様の振動機を用い、また強力なスプリングを内蔵した加速シリンダーを上部に設け、振圧盤の地面に対する打撃をさらに加速し、有効な振圧を行わせるようになっている。

三、本機の上部についている調整レ

弊社では、永らくモーター式振圧バイブレーターに、逆転防止装置を取付けておりましたが、このたびこれに使用されているフレキシブルシャフトに就いて、多年にわたり研究を続けた結果、特殊な巻線方法により、正逆両用に使え、フリーシャフトの完成を見るに至りました。そこでこのフリーシャフトの完成に依り今迄使用していた逆転防止装置は不要となり、しかも、性能には何等変ることなく寧ろ理想的な振

MVI-GM型(新巻振型2Pモーターフレキシ)コンクリートバイブレーター



左: 両回転にフリーシャフト (右: 一回転に標準型シャフト)

型バイブレーターとして面目を一新し、名称を新巻振型バイブレーターとして発売することになりました。改良された点を左に掲げます。

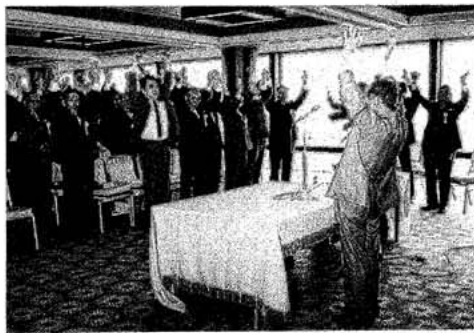
MVI-GM型(2極モーター) 新巻振型バイブレーター完成 (フリーシャフト使用)

本機の仕様	
MDR-S50	
式長 (ハンドル含む)	2340mm
全高 (ハンドル含む)	1625mm
巾	765mm
全高	1100mm
ローラ径×巾	352φ×600mm
振圧盤長×巾	600×240mm
振動数	0~130v.p.m
最大遠心力	1300kg
走行速度	0~0.6km/h (前後進共)
最大作業時勾配	約45°
車輻重量	560kg

パワーユニットの仕様	
MDR-S50	
全長	1460mm
全高	935mm
巾	910mm
全高	120mm
容量	タービン油#90
出力	EY21AS-R
出力	10PS/1500r.p.m
出力	15PS/1800r.p.m
出力	自動車用ガソリン
出力	約13ℓ
出力	325kg
出力	449kg (オイル、燃料含む)

三笠産業ニュース 創刊10周年記念 祝賀会

大広間の式場には、取引銀行や業界紙各社のお歴々を始め、協力会社である笠友会や、協会の方々も出席され、本社社員以上の従業員も加わって、内輪だけで約百五十名、星野営業部長の司会の下に、午後一時頃、祝賀会が開かれた。



(花村建設産業新聞社社長の前頭で万歳高唱)

続いて、来賓を代表して、小松三菱銀行三崎町支店長よりご鄭重なるご祝詞を頂戴した。引続き式典は、表彰式に移り、京谷社長より、岡田三笠建設機械九社出張所長、永井デザインスタジオ社長、朝川印刷社社長、三井物産の建設機械も最早世界の水準に達しているものと感ぜられ、大変意を強くした。最後に、三笠製品をこの展示会場へ出品したとしても、少しも見劣りするものではないという自信を深めることが出来た」とその抱負の一端を覗かせていた。

やがて、加藤桜電機社長長の終幕を告げる力こもった手締めが済んだところで、平戸経理部長の閉宴の挨拶を最後に、何れも名残惜しい気持ちを抱いて、静かに退場して行かれた。(S生)

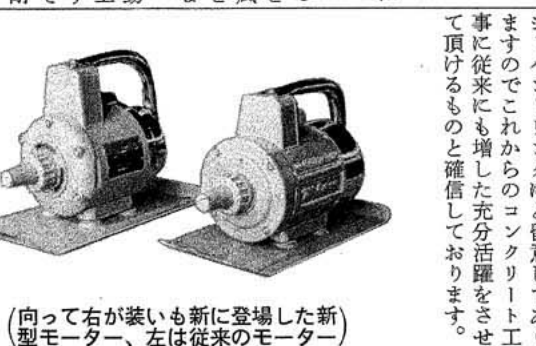


(八階の間に於ける和やかなパティ風景)

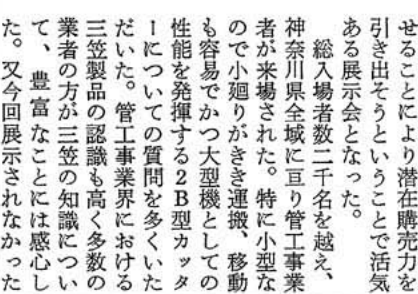
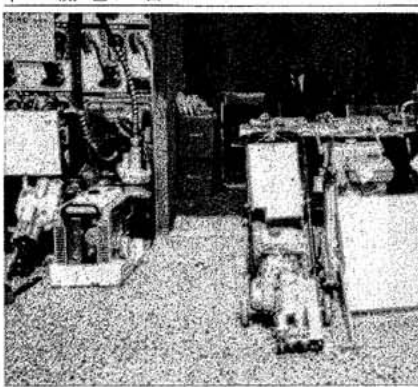
SM型 三笠特殊モーター 馬力アップ

長年に亘り御愛顧を賜りました標準型バイブレーター用のSM型馬力(四〇〇W)特殊モーターが、性能及び装いも新に改良されて発売されることになりました。

このモーターは、御存知の通りMVI-28型45型の内部振動機用いば原動機として活躍して来た、いわば三笠バイブレーターの主要原動機の一つであります。弊社がこの特殊モーターをバイブレーターと共に世に送り出してから二十数年を経過し、その間、ご使用者各位からのあたたかいご教示と吾々の研究とにより幾度となく改良を加えて今日に至っている次第です。そこでこの度、過去の使用実績、並びに技術改善の較し、より一段と強力になり、より



(向って右が装いも新に登場した新(型)モーター、左は従来のモーター)



（株）中道機械 大阪

創立十五周年記念 祝賀式挙行

我が社の近畿、中国、四国地区の代理店である株式会社中道機械（本社、大阪市西区堀江二丁目五十六番地、中道喜治氏）におかれましては、創立十五周年記念祝賀式を五月四日、有馬グランドホテルに於いて、二百十名の社員のみならず、多数の来賓が参加されて、盛大に挙行された。我が社からは小野常務が祝詞に列席した。

同社は中道機械産業（本社、東（有馬）グランドホテルの式場にて）挨拶する中道喜治社長



日本建設機械化協会関西支部主催による、小型締固め機械実演会は、四月六日（金）枚方市長尾町地先の藤坂ハイム住宅工事大成道路現場に於て盛大に行われた。従来

（株）中道機械 大阪

小型締固め機械実演会

昭和48年 4月 6日（金）
（場所）枚方市ハイム住宅工事大成道路現場
（主催）日本建設機械化協会関西支部

工による作業能力の効率化を計る目的で、開催されたものである。参加メーカー9社、数こそ少ないが、いずれも実績を誇る代表メーカー

我が社の出品機はMT-R 55型、80型ランマー、MV C 52型、70型、110型、バイコンバクター、M D R 117型、11型ダブルローラーであったが、特にコンバクターの実演は、アスファルト仕上げの補助機として、関心を寄せていた。

第四回中国建設機械展 出品社数もメーカー及び商社を中国建設新聞社、建設興業タイムスを含め六十数社に及び、予想を上廻る社の協賛により五月十二日から十五日の四日間、出雲大社横の大駐車場において開催された。

山陰地区は今や発展途上にあり、工事量も相当かかっているところへ昨年の風水害による復旧工事が重なり今後の大きな需要地域として期待されている。又いづれとも同様、人手不足の解消にやきとくとして、今後は省力化に頼るしかなく、建設機械への関心はユーザー各位の真摯な様子が見えた。

第十回記念管工事機械展示会 四月六日（金）から三日間、神奈川に開催された。我が社からは、中道機械川東水道工事協同組合の主催による、管工事機械展示会が80型タンピングランマー、70型コンバクター、そして管工事業者を対象に製作した2B型ランマーの3点を出展しPRに努めた。前日迄降り続いた雨も開会当日には、すっかり上り、晴天にめぐまれ連日多数の来客も有り終日盛況を極めた。展示会の特徴としてユーザーが自由な気持で製品を運搬出来、又見せることにより潜在購買力を引き出すというところで活気ある展示会となった。

三笠親和会旅行 四月「金比羅」を訪ねて 六月八日（金）、きょうのお天気はどうかと心配しながら、早朝の空を見上げると、重たい雲はあったが、まずまずのお天気になり、七時三十分東京発の新幹線で旅の第一歩を踏み出した。最初の目的地である日本庭園の高速道路に入り、左に六甲の山な一つ、岡山後楽園を訪ね、右にメリケン波止場、甲子園球場等を見ながら大阪へ着いた。二日間は、お昼寝の気分を十分に味わった。別れし、夜行寝台で帰京の途について、岡田時代記

うことでこの様な催をして、小型機械に対する認識を深めると同時に、大型機小型機等の組合わせ施工に、大いに印象づけたい。

幸い、天候も上々で場所柄入場者数は予想人員を若干下廻っていたが、それだけ密度の濃い展示会が行われた。特に、大手業者の大成建設、鹿島建設等の現場担当者も熱心に参観され、展示時の能力、仕上がり具合等きめの細い質問が多かった。

第四回中国建設機械展 出品社数もメーカー及び商社を中国建設新聞社、建設興業タイムスを含め六十数社に及び、予想を上廻る社の協賛により五月十二日から十五日の四日間、出雲大社横の大駐車場において開催された。

山陰地区は今や発展途上にあり、工事量も相当かかっているところへ昨年の風水害による復旧工事が重なり今後の大きな需要地域として期待されている。又いづれとも同様、人手不足の解消にやきとくとして、今後は省力化に頼るしかなく、建設機械への関心はユーザー各位の真摯な様子が見えた。

第十回記念管工事機械展示会 四月六日（金）から三日間、神奈川に開催された。我が社からは、中道機械川東水道工事協同組合の主催による、管工事機械展示会が80型タンピングランマー、70型コンバクター、そして管工事業者を対象に製作した2B型ランマーの3点を出展しPRに努めた。前日迄降り続いた雨も開会当日には、すっかり上り、晴天にめぐまれ連日多数の来客も有り終日盛況を極めた。展示会の特徴としてユーザーが自由な気持で製品を運搬出来、又見せることにより潜在購買力を引き出すというところで活気ある展示会となった。

三笠親和会旅行 四月「金比羅」を訪ねて 六月八日（金）、きょうのお天気はどうかと心配しながら、早朝の空を見上げると、重たい雲はあったが、まずまずのお天気になり、七時三十分東京発の新幹線で旅の第一歩を踏み出した。最初の目的地である日本庭園の高速道路に入り、左に六甲の山な一つ、岡山後楽園を訪ね、右にメリケン波止場、甲子園球場等を見ながら大阪へ着いた。二日間は、お昼寝の気分を十分に味わった。別れし、夜行寝台で帰京の途について、岡田時代記